The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	薬学部「情報活用基礎」を担当して
Author(s)	岡本, 晃典
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2013, 14, p. 35-35
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70352
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

薬学部「情報活用基礎」を担当して

岡本 晃典 （薬学研究科 創成薬学専攻 情報・計量薬学分野）

講義概要について

本講義は薬学部 1 年生を対象として第一セメスターに開講される講義であり、情報の伝達・収集・整理・分析などの方法の基礎を習得し、情報を活用できるようになることを目的としている。具体的には、小グループごとにテーマを与え、各自で情報収集した結果をまとめ、グループ単位で行うプレゼンテーションを中心に、Excel や RasMol などの各種アプリケーションの紹介と使用の演習を行っている。

講義内容について

初回はログインから一連の基本的な操作、日本語入力などを行っており、Linux OS 搭載マシンを使用していた時代（あるいは筆者の学部生時は NeXT 時代）には日本語入力に戸惑う学生が多かったが、OS が Windows に替わってからはスムーズに進むようになった。ただ、全ての入力を 2 バイト文字で済ませる（例えば、2 バイト文字「α」の使用など）ことはレポートや論文の作成時に好ましくないので、こういった機会を利用し早い時期から使い分け方をレクチャーすることも必要かもしれない。

Microsoft Office の各ソフトウェアに関しては、高校の授業などでも触れる機会が多かったためか、比較的迷うことは少なく、作業していたように見受けられた。Word、 Excel だけでなく、PowerPoint もそれなりに使いこなしており、少なくともプレゼンテーション用のスライドは簡単に作成していた。ただ、文章や画像の引用時など、ライセンスにあまり頓着しないことが多かったため、情報倫理や Web 上でのマナーなどに加えて、実際の引用の仕方も演習の一部に含めることも今後検討したい。発表用スライドの内容とまとめ方など、出来上がりについては、グループ間で若干の差が感じられたが、プレゼンテーションについては皆堂々としたもので、年々発表スキルが向上しているように思われる。

HTML と CSS については、他の回よりも学生の取り組み方や理解の差が顕著であった。Web ページの作成を手早く済ませ、装飾やデザインなどを工夫していた学生がいた一方で、教員が提示したテンプレートを写してから以降の作業に苦労していた学生も一部に見受けられた。今年度から TA の数を減らしており、他の回については問題なかったが、この HTML と CSS の演習に関しては、受講学生のフォロー体制を見直す必要が感じられた。

タンパク質や DNA など生体高分子を中心に RasMol による表示を使いつつ、例えば原子間距離の確認や表示法の差異の確認などの演習を行った。薬学領域に近い内容であり、また、分子の三次元表示の物珍しさもあってか、熱心に取り組んでいた学生が多かった。例年、講義時間の一部を学部行事の事務手続きに使用するが、今年度はこの回に該当したため、演習の一部を省略せざるを得なかった。教員の計画ミスであり、次年度以降の反省点である。

Excel については PowerPoint と同様に迷うことなく使用していた学生が多かった。しかし、同じ計算式を何度も入力するなど、効率的とはいえないやり方で問題を解いていた学生も見受けられたので、講義内容もテクニック的な内容にも簡単に触れるよう構成し直すことが必要かもしれない。

利用環境について

サイバーメディアセンター豊中教育研究棟は設備も良く、講義室間の映像・音声の連動なども含め、講義環境として申し分ない。また Linux を主体としていた頃は講義中に PC がフリーズすることも多かったが、最近はほとんどなく、講義に集中できる環境が整えられていると感じている。ひとえにセンター教職員皆様のおかげと感謝している。最後に、本年度も TA 諸氏には講義の実施を支えて頂いた。この場を借りて御礼申し上げます。